

# マリンカルチャーセンターの今後のあり方について

資料 4

## 現状と課題

- 年間約10万人の利用があり、そのうち学校利用による宿泊客が2万人超
- H24～27年度において、毎年収支が改善しているものの、指定管理者の収支は赤字
  - ・県からの委託料:約80,000千円/年
- 施設の老朽化が進行
  - ・平成4年開館(建設費約80億円)
  - ・県の支出した保全費用(直近指定管理期間(H24～27年度)):約60,000千円/年

## 前回の行財政改革推進委員会(2月19日)での主な意見

- サービス業のプロの意見を聞くなど外部の意見を聴いたり、地元の意見を聞きながら取り組んでほしい
- 行って良かった、おもしろかった、おいしかったの3要素が必要
- 道の駅等周辺施設との連携が必要
- 将来のあり方をゼロベースで見直すのなら、次期指定管理期間の保全費用は最低限にとどめるべき
- 劇的な利用方法の変更が考えられないか

## 検討状況及び今後の方向性

- 前回の委員会議論を踏まえ、庁内PTにおいて、地元関係者や専門家の意見も聴取したうえで、基本コンセプトや施設の有効活用、利用者拡大の方策について検討。
  - 【スケジュール】
  - 8月中にPT案をとりまとめ、その後、募集要項に検討結果を反映
  - 9月下旬～10月上旬に次期指定管理者の公募開始
- 次期指定管理期間中(H29～33年度)に、施設のあり方を抜本的に検討(例)
  - ・建設から30年経過した施設の老朽化等を踏まえ廃止
  - ・土地(佐伯市所有)も含めた民間への譲渡(民活)
  - ・公の施設として指定管理の継続 など